

NEDO懸賞金活用型プログラム衛星データを活用したソリューション開発

NEDO Challenge

Satellite Data

-農林水産業を衛星データでアップデート！-

応募説明資料



令和7年6月4日

NEDO Challenge Satellite Data運営事務局



SCROLL DOWN

応募概要

応募期間

応募開始日：2025年5月16日 午前10:00

締め切り日：2025年7月31日 正午

受付方法

本応募は、受付フォームのみで受け付けます。

提出先

以下公式サイト上の受付フォームから提出ください。

<https://space-data-challenge.nedo.go.jp>

問い合わせ先

NEDO Challenge, Satellite Data運営事務局

メール：info@space-data-challenge.jp

(本事業全般に関するお問い合わせ)

本事業の概要

我が国の農林水産分野を取り巻く環境は、国際情勢の不安定化や気候変動による異常気象の頻発化、人口減少や高齢化など、大きく変化しています。

このような中、令和6年5月に食料・農業・農村基本法が改正され、令和7年4月には改正基本法に基づく「食料・農業・農村基本計画」が策定されました。改正基本法は、その基本理念として「食料安全保障の確保」、「農業の持続的発展」、「環境と調和のとれた食料システムの確立」、「多面的機能の発揮」、「農村の振興」を定めており、基本計画においては、この実現を図るための、生産性の向上や付加価値の向上、輸出の促進、持続的な食料システムの構築、環境との調和等の基本となる施策が体系的に整理されています。

これらの施策を推進し、農林水産分野の課題の解決を図るためには、衛星や各種センサ等で得られたデータの活用を始めとする、農林水産業のあらゆる場面でのDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進・普及が不可欠です。一方、経済産業省、NEDOは、衛星を活用した様々な社会課題の解決に資するソリューション開発に取り組んでいます。本取組においては、2019年に経済産業省が立ち上げたクラウド環境上で誰でも衛星データを利用できるオープンプラットフォーム「Tellus（テルース）」を展開しています。

本事業は、農林水産分野の課題の解決を、衛星データ等を活用することで、より効果的に実現する技術を収集・分析し、将来の共同研究等に繋がる技術シーズを発掘するものです。本事業においては、より多くの革新的・独創的なアイデア・提案を収集する目的で、懸賞金型コンテストを実施します。

応募テーマ1

テーマ1

生産現場の課題解決に資する技術開発

- 衛星データ等を活用した農業・林業・水産業の生産現場の課題解決に資する技術開発を募ります。

背景・課題

世界的な気候変動や異常気象などの影響により、農林水産分野における生産活動が不安定化している。また、食料安全保障上の懸念の高まりにより、生産性向上が求められる中、スマート農林水産業や衛星データ等の先進技術の活用による生産性向上、業務効率化に対する需要が増している。その他、農山漁村の持続的な生産基盤の維持・向上や担い手不足・スキル継承など生産現場における課題は多岐に渡る。

応募例

- スマート農林水産業の実現に向けた技術開発
(農機・林業機材・漁船の自動化、スマート灌漑管理システム等)
- 持続的な農山漁村の維持・向上に向けた基盤整備に資する技術開発
(水路・林道等の生産現場のインフラ整備などの土木分野や防災分野での衛星活用技術等)
- 食料安全保障の実現に向けた生産性向上に資する技術開発
(土壌・生育予測、漁場予測、病害検知、鳥獣害対策等)
- 生産活動や供給能力の安定化に資する技術開発(異常気象や気候変動対策等)
- その他生産現場の課題解決に直結するソリューションの開発(栽培適地判定や技術継承、担い手不足等)

応募者への期待

上記のような課題解決をより高いレベルで満たす情報サービス、意思決定の支援システムのプロトタイピングやそれを実現する手法開発を期待します。

応募テーマ2 (1/2)

テーマ2

資源の管理・監視および物流の高度化に資する技術開発

- 衛星データ等を活用した農業・林業・水産業の資源管理・監視の高度化に資する技術開発を募ります。
- 衛星データ等を活用した農業・林業・水産業における国内外のサプライチェーンや輸出入等を含む物流の高度化に資する技術開発を募ります。

背景・課題

農林水産資源の管理・監視においては、自治体や民間企業問わず多大な工数をかけて実施しているところであるが、人口減少の影響により既存の人員では対応が追いついていない。その他、気候変動や異常気象を考慮した資源の保護、違法行為の取締り、広域な統計情報の作成など農林水産資源の管理・監視には多くの課題があり、高度・効率化が求められている。昨今の食料品の価格高騰、海外情勢の不安定化による木材や輸入品目の価格高騰など、国内外のサプライチェーンの最適化や輸出入をはじめとした物流においては多くの課題が顕在化しつつある。このような状況下で農林水産分野における物流の高度化が求められている。

応募例 (管理・監視)

- 自治体等が実施する現地確認業務や統計情報の作成の効率化に資する技術開発
- 農林水産資源の把握・管理・監視業務の効率化に資する技術開発
- 違法伐採、違法漁船、違法転用の監視業務の効率化に資する技術開発
- 農林水産分野における各種交付金支払い業務の効果測定業務に資する技術開発
- 海外の穀物主要生産地帯や木材の主要生産地帯の広域モニタリング技術の開発
- その他、農業・林業・水産業の資源管理・監視の高度化に資するソリューションの開発

応募テーマ2 (2/2)

応募例 (物流)

- 食料価格の安定化に資する価格予測システム
- 木材のトレーサビリティの追跡技術の構築による産地証明の発行システムの開発
- IUU漁業に対処するための漁獲物の産地証明の発行システムの開発
- 輸入計画の最適化に向けた国内の需要予測システムの開発
- 漁獲物の販売価格の最大化に向けた最適な卸売市場の提案システムの開発
- その他、農林水産業における国内外のサプライチェーンや輸出入等を含む物流の高度化に資するソリューションの開発

応募者への 期待

上記のような課題解決をより高いレベルで満たす情報サービス、意思決定の支援システムのプロトタイピングやそれを実現する手法開発を期待します。

その他応募テーマに係る留意事項

- 1 応募者による複数テーマへの応募は可能ですが、各テーマへの応募数は1つまでとします。
- 新規開発だけでなく、既存システムの機能性向上等を目指すもの、あるいは、既存システムを組み合わせ新たな付加価値を創出するものも対象とします。
- 昨年度実施した「NEDO Challenge, Satellite Data for Green Earth」のテーマとしていたカーボンクレジット、エネルギーマネジメント、気候変動・環境レジリエンスを主たる目的とした提案は対象外とさせていただきます。昨年度実施したコンテストの詳細は以下のURLを参照ください。

■ NEDO Challenge, Satellite Data for Green Earth ホームページ
https://space-data-challenge.nedo.go.jp/green_earth/

開発・データ利用環境

本事業では、1次審査を通過した応募者に対して以下の開発環境・データ利用環境を提供する予定ですが、利用は必須ではありません。また、TellusのクラウドGPUの提供については、ご要望に応じて事務局が提供可否を検討します。

開発環境 Tellus

- 株式会社Tellusのクラウド4コア8GBSSD100GB (2台)
- Tellus Satellite Data Master with QGIS (8GB)
※Tellus Satellite Data Master with QGIS (8GB)の環境は以下の通りです。
 - ・ CPU 仮想 6Core メモリ 8GB SSD500GB

データ利用 環境 WAGRI

- WAGRIとは、気象や農地、収量予測など農業に役立つデータやプログラムをAPIで提供する公的なクラウドサービスです。

※WAGRIのサービス利用をご希望の場合、事務局にてその費用を負担します。

参考データ例（1/4）

ご参考として、テーマに関連するデータを例示します。一部地上データは、提供元へ利用可否の問い合わせが必要です。また、下記例にないデータを持ち込むことも可能です（持ち込むデータの性質や内容を事務局が事前に確認することがあります）。有償データは、ご要望に応じて事務局が購入することも検討します。

【地上データ例】

WAGRIからAPIで 取得可能なデータ

- 1kmメッシュ農業気象データ取得API
- 統合農地データ取得API
- 市況API

詳細はWAGRI公式HPをご参照ください：<https://wagri.naro.go.jp/>

その他地上データ

- ひまわり日射量データベース
- NEDO日射量データベース
- NeoWins
- 局所的風況予測モデル
- 森林資源現況調査
- 森林生態系多様性基礎調査
- 国土地理院 災害関連情報
- Global Forest Watch - Tree cover loss due to fire
- ナウファス
- 自然環境調査Web-GIS
- 農林水産省 筆ポリゴン
- 登記所備付地図データ
- 林野庁 高精度森林資源情報
- 農研機構 日本土壌インベントリー
- 気象庁 各種気象データ
- 農研機構 メッシュ農業気象データ
- 農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）
- 青果物卸売市場調査
- 水産物流通調査

参考データ例（2/4）

【衛星データ例】

Tellus上にあるデータ
(自身の環境でもダウンロード可能な衛星データ)

- ASTER GDEM ver.3
- AVNIR-2_1B1
- AW3D30
- GCOM-C/CHLA 8日平均（高次プロダクト）
- GCOM-C/CHLA 準リアルタイム（高次プロダクト）
- GCOM-C/SST 8日平均（高次プロダクト）
- GCOM-C/SST 準リアルタイム（高次プロダクト）
- GCOM-C/TSM 8日平均（高次プロダクト）
- GCOM-C/TSM 準リアルタイム（高次プロダクト）
- PALSAR_L1.1
- PALSAR_L2.2
- GOSAT/L2/SWIR CO2カラム量(G1-01)
- GOSAT/L2/SWIR CH4カラム量(G1-02)
- GOSAT/L2/SWIR H2Oカラム量(G1-03)
- GOSAT/L2/TIR CO2濃度高度分布（日照）(G1-04-1)
- GOSAT/L2/TIR CO2濃度高度分布（日陰）(G1-04-2)
- GOSAT/L2/TIR CH4濃度高度分布（日照）(G1-05-1)
- GOSAT/L2/TIR CH4濃度高度分布（日陰）(G1-05-2)
- GOSAT/L3/SWIR 全球CO2カラム平均濃度(G1-06)
- GOSAT/L3/SWIR 全球CH4カラム平均濃度(G1-07)
- GOSAT/L4A 全球CO2吸収排出量(G1-08)
- GOSAT/L4A 全球CH4吸収排出量(G1-09)
- GOSAT/L4B 全球CO2濃度(G1-10)
- GOSAT/L4B 全球CH4濃度(G1-11)
- GOSAT-2/L2/SWIR CO2カラム平均気体濃度(G2-01)
- GOSAT-2/L2/SWIR CH4カラム平均気体濃度(G2-02)
- GOSAT-2/L2/SWIR COカラム平均気体濃度(G2-03)
- GOSAT-2/L2/SWIR H2Oカラム平均気体濃度(G2-04)
- GOSAT-2/L4A 全球CO2吸収排出量(G2-09)
- GOSAT-2/L4B 全球CO2濃度(G2-10)
- HISUI

※GOSATの詳細は[こちら](#)の特集ページをご確認ください。

※HISUIは別途ご利用の申し込みが必要となります。お申し込みは[こちら](#)

詳細はTellus公式HPをご参照ください：<https://www.tellusxdp.com/ja/>

参考データ例（3/4）

【衛星データ例】

QPS研究所より 提供が受けられるデータ

- QPS-SAR L1.1 (SLC/SLA/MLA)
- QPS-SAR L1.2 (SLA/MLA)
- QPS-SAR L1.3 (SLA/MLA)

※ SLC/SLAはStripmapモード（分解能1.8m x 0.46m, シーンサイズ14km x 7km）

※ MLAはSpotlightモード（分解能0.46m x 0.46m, シーンサイズ7km x 7km）

【株式会社QPS研究所とは】

- QPS研究所は九州に宇宙産業を根付かせることを目指して2005年に福岡で創業された宇宙開発企業で、小型SAR衛星「QPS-SAR」の開発・製造・運用を行い、衛星から取得した高精度な地球観測データの提供を行っています。

詳細はQPS研究所の公式HPをご参照ください：<https://i-qps.net/>

Synspectiveより 提供が受けられるデータ

- StriX Stripmapモード(分解能：3.6mX2.6m、シーンサイズ20kmX50km)
- StriX Sliding Spotlightモード(分解能：0.9mX0.9m、シーンサイズ10kmX10km)
- StriX Sliding Spotlightモード(分解能：0.9mX0.25-0.5m、シーンサイズ10kmX3km)

【株式会社Synspectiveとは】

- Synspectiveは、自社によるSAR衛星コンステレーションを保有するソリューションプロバイダーです。
小型SAR衛星の開発・運用を行い、構築したコンステレーションから取得したデータを提供しています。また独自のデータ解析技術を用いて世界が抱える様々な課題に対して、データに基づいたソリューションを提供しています。

詳細はSynspectiveの公式HPをご参照ください：<https://synspective.com/jp/>

参考データ例（4/4）

【衛星データ例】

その他、衛星データ等の 入手先

（Tellusの開発/解析環境でのみ
ダウンロード可能な衛星データ）

- ASNARO-1_L1B
- ASNARO-2_L1.1
- ASNARO-2_L1.5
- ASNARO-2_L2.1
- CE-SAT-IIB
- GRUS_L3A
- PALSAR-2_L1.1
- PALSAR-2_L2.1
- SLATS_1B
- 光学マルチバンド(0.8m/3.2m)データ相当性能のリサンプリングデータ

詳細はTellus公式HPをご参照ください：<https://www.tellusxdp.com/ja/>

その他、衛星データ等の 入手先

- NASA-Earthdata
- ESA-Copernicus
- Google Earth Engine
- G空間情報センター

測位衛星（みちびき） サービス

- 高精度測位補強サービス（MADOCA-PPP）
- 信号認証サービス
- GNSS統合データ共有システム「MIRAI」

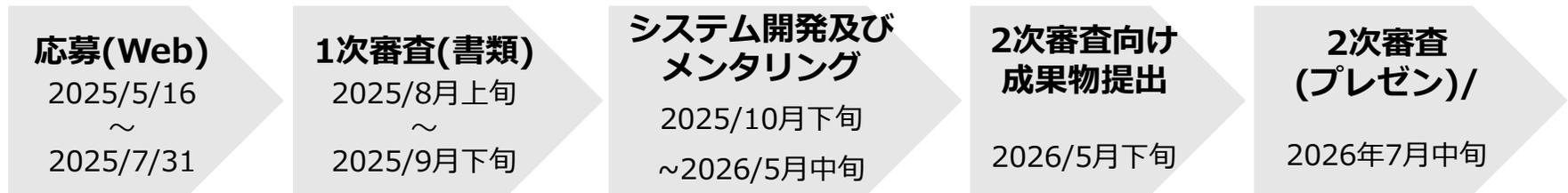
【みちびきとは】

- みちびき(準天頂衛星システム)は内閣府宇宙開発戦略推進事務局が構築しており、準天頂軌道の衛星が主体となって構成されている衛星測位システムである。2018年の運用開始以降、流通・土木・建築・農林水産など幅広い分野で活用されている

詳細はみちびき公式HPをご参照ください：<https://qzss.go.jp/>

応募方法とスケジュール

本事業では、法人・個人・グループを問わず応募することが可能であり、大企業やスタートアップ、上場/非上場の別は問いません。ただし、日本国に籍を有する個人、グループおよび日本国の法人格を有する民間企業、大学・公的研究機関等である必要があります。応募提案に対し、書類選考による1次審査、プレゼンテーション（ピッチ）方式による2次審査を行います。



【注意事項】

- 明らかに事業化を目指す意思がないアイデアの応募は選考対象外となります。
- 新規開発だけでなく、既存システムの機能性向上等を目指すもの、あるいは、既存システムを組み合わせ新たな付加価値を創出しようとするものも対象とします。
- スタートアップ等については、機関投資家等から資金調達を行っている場合であっても応募が可能です。
- 「国の競争的研究費（内閣府の「競争的研究費制度」に該当するもの）」のみで創出された成果については応募できません。
- 事業管理上、NEDOの必要とする措置を適切に遂行できる必要があります。
- 企画運営事業者と利害関係にある場合は、応募することができません。
- 「補助金交付等停止措置」に該当中の研究者や機関は応募できません。
- 反社会的勢力である者、反社会的勢力との間に過去・現在又は直接・間接を問わず、取引、金銭の支払い、便宜の供与その他一切の関係又は交流がある者、また、反社会的勢力に属する者又は反社会的勢力との交流を持っている者が役員に選任され、従業員として雇用され又は経営に関与している事実がある者は、応募することができません。
- 上記に関わらず、当事務局が不適切と認めた場合や本事業に関する要件等に違反または不正があった場合には、事務局の判断により応募資格取り消しまたは審査結果の全部または一部について取り消しを行うことがあります。

応募申請方法

指定の応募フォームより応募申請をしてください。

【応募フォーム】

- <https://forms.office.com/r/ZxN9BSbhcq>

【応募手順】

1. 公式サイトより応募申請書(Wordフォーマット)をダウンロードし、申請書を作成
※応募申請書は代表者が法人か個人かで異なりますのでご注意ください。
2. 応募フォームへ必要事項を入力し、応募申請書をアップロードの上、登録
※応募フォーム上に掲載されているアンケートにもご協力をお願いします。
3. 応募完了メールを確認

応募申請書

応募申請書（ウェブサイトよりダウンロードのWordフォーム）の各項目記載方法は以下のとおりです。

項目	記載内容
応募テーマ	既に今回募集する2つのテーマ名が記載されています。 応募するテーマを残してください。
提案名	ご提案内容を端的に表した名称を設定して記載してください。
応募者名	法人で応募する場合、応募法人名、応募代表者名を記載してください。 個人で応募する場合、応募代表者氏名を記載してください。 ※審査結果通知書類、表彰物および審査結果等の公開の際に上記名義を使用します。
応募者情報	法人で応募する場合、法人概要、連絡担当者の情報を記載してください。 個人で応募する場合、連絡担当者の情報を記載してください。 なお、複数人で応募する場合は構成メンバーリストへ全員分の情報を記載してください。
提案の概要	提案のサマリー を500字程度で記載してください。 文章を補足する図表を1点のみ入れても構いません。
課題の妥当性と解決への貢献度（審査基準1）	農林水産分野に関するテーマ課題に基づき、衛星データを活用したサービスを創出する内容 であることについて500字程度で記載して下さい。文章を補足する図表を1点のみ入れても構いません。
衛星データ活用の有効性（審査基準2）	提案のシステムを実現するにあたり、 開発の基となる衛星データ利用に関する技術が実現可能なレベルにあること、またその活用範囲が十分であること について500字程度で記載してください。文章を補足する図表を1点のみ入れても構いません。
サービスの新規性（審査基準3）	農林水産分野において、衛星データを活用した 新たなサービスを創出する内容 であることについて500字程度で記載してください。文章を補足する図表を1点のみ入れても構いません。
実用化による社会発展性（審査基準4）	開発されたシステムやそれを活用したサービスについて、 社会全体への波及効果が期待できるものであること について、500字程度で記載してください。文章を補足する図表を1点のみ入れても構いません。
実施スケジュール	1次審査通過後から2次審査まで(2025年11月～2026年5月)で プロトタイプを開発するためのスケジュール を必ず記載してください。 当該期間にどのような取り組みを行う予定であるか、ご自身の提案の中で補強すべき事項があれば、どのような活動を行い補強するかについて記載してください。

審査

1次審査（書類審査）を通過した応募者に対しては、開発環境の提供および専門家（メンター）によるメンタリングを受ける機会を提供します。2次審査では、一般公開の場でのプレゼンテーション（ピッチ）方式による審査を行い、受賞者を選定します。詳細につきましては、順次発表します。

1次審査、2次審査の審査結果については、NEDOホームページ及び公式サイトにて公表し、また全ての応募者へ電子メールにて通知します。

なお、審査結果に関するお問い合わせには一切応じかねますので、あらかじめご了承ください。

【審査結果通知スケジュール】

- 1次審査の結果公表：2025年10月上旬（予定）
- 2次審査の結果公表：2026年7月中旬（予定）

審査基準について

以下の審査基準に基づいて総合的な評価を行います。

- 1次審査は、以下の審査項目を適用します。2次審査は、開発後の成果物を審査する視点で、別途審査項目を設定します。
- 審査委員のうち、各応募者と利害関係を有するものは、その応募者についての審査から外れることとします。
- 応募申請書を作成する際に、以下の4項目について判断材料となる記載を必ず全てご記入下さい。尚、応募締め切り後に、内容について確認等の連絡を行う場合があります。

審査基準	審査項目
(1)課題の妥当性と解決への貢献度	農林水産分野に関するテーマ課題に基づき、衛星データを活用したサービスを創出すること <ul style="list-style-type: none">• 設定されたテーマに係る課題を的確に捉えているか• 提案されたアイデアは、設定された課題解決への貢献が見込めるか、など
(2)衛星データ活用の有効性	提案のシステムを実現するにあたり、開発の基となる衛星データ利用に関する技術が実現可能なレベルにあること、またその活用範囲が十分であること <ul style="list-style-type: none">• 衛星データを利用した開発を進めるための技術シーズを有しているか、あるいは技術シーズを創出できる見込みがあるか• アイデアにおいて衛星データが効果的に活用されているか、など
(3)サービスの新規性	農林水産分野において、衛星データを活用した新たなサービスを創出すること <ul style="list-style-type: none">• これまでにない新しいサービスであるか（既存システムの機能性向上、あるいは、既存システムを組み合わせ新たな付加価値を創出するものも含む）
(4)実用化による社会発展性	開発されたシステムやそれを活用したサービスについて、社会全体への波及効果が期待できるものであること <ul style="list-style-type: none">• 実用化に向けたスケジュールとプロセスが示されているか• 実用化に向けた想定ユーザー、ステークホルダー、市場ニーズや付加価値等が示されているか• 実用化による社会的インパクトは十分に大きいのか、など

1次審査通過者に対する支援

本事業では1次審査を通過した応募者に対して、合同ワークショップや専門家（メンター）による技術面およびビジネス開発面でのメンタリングを実施予定です。頻度や実施内容については、可能な限り1次審査通過者の要望に応じ調整いたします。

また、共同研究等に繋げるための支援の一環として対面でのネットワーキングの機会も提供します。

種類	内容	実施方法
合同ワークショップ (適宜実施)	1次審査通過者が合同で参加するオンライン形式のワークショップを合計6回程度開催し、内容は事業化やプレゼン技能習得を基本とします。 (初回はキックオフを兼ねておりますので参加必須とし、10月下旬の開催予定です) (初回以降は任意参加)	<ul style="list-style-type: none"> 原則オンライン 初回はハイブリット開催
個別メンタリング	研究開発の進捗管理のための定期報告と、個々の研究開発に応じて希望者には技術や事業化に関するメンタリングを1回/月実施します。 <ul style="list-style-type: none"> 技術メンタリング最大6回程度（毎月希望時） 事業化メンタリング最大6回程度（毎月希望時） 進捗管理 月次（メールでの管理表提出） 	<ul style="list-style-type: none"> 原則オンライン
ネットワーキング	個別メンタリングを通じて把握した通過者の要請等に基づき、共同研究等の相手先の紹介や宇宙、農林水産分野におけるコミュニティとの意見交換を実施します。また、合同ワークショップの中で共同研究等に繋げるための支援の一環として外部も参加可能なネットワーキングイベントを開催します。 <ul style="list-style-type: none"> 個別メンタリングとあわせて実施 合同ワークショップの中でネットワーキングイベントを2回程度実施(対面開催予定) その他、適宜必要に応じて実施 	<ul style="list-style-type: none"> 適宜

懸賞金額

懸賞金額は以下のとおりです。

2位以下の同位受賞者が存在した場合には、各位2者まで選定します。その際の賞金額については以下の通りとします。ただし、2位が2者存在した場合には、3位の受賞は行わないものとします。

上位3位までには選定されなかったが、公共性・公益性が高く、将来的に社会課題解決につながり得ると判断されたものについては、それぞれのテーマで審査委員特別賞を授与することがあります。審査委員特別賞は各テーマ最大1チームまでとします。

いずれの賞についても、審査の結果該当なしとなる場合もございますので、あらかじめご了承ください。

テーマ	懸賞金額
テーマ1 生産現場の課題解決に資する技術開発	1位：1,000万円 2位：500万円 3位：300万円 審査委員特別賞：100万円
テーマ2 資源の管理・監視および物流の高度化に資する技術開発	1位：1,000万円 2位：500万円 3位：300万円 審査委員特別賞：100万円

マッチングプログラム

本事業では、広く公募を募る目的で事務局による課題ニーズ保有者と技術シーズ保有者のマッチングの機会を提供します。

本コンテスト参加候補者の情報およびマッチング希望の情報を収集・共有することで、「農林水産分野の課題ニーズは把握しているがソリューション開発技術の知見がない」や、「ソリューション開発技術シーズは有しているが、農林水産分野の実用先が見えていない」等の応募を躊躇されている方同士のマッチングに是非ご活用ください。

なお、マッチングについては確約できるものではございませんので予めご了承ください。

応募受付期間：2025年4月25日（金）～6月30日（月） 正午

応募方法：

下記公式サイト上のマッチングプログラムの応募フォームにアクセスいただき、必要事項の記入・提出をいただくことで応募が可能です。

公式サイト：<https://space-data-challenge.nedo.go.jp>

FAQs

よくあるご質問は応募要項に記載しておりますのでご確認ください。

最新のFAQについては公式サイト内 (<https://space-data-challenge.nedo.go.jp>) でご確認ください。

カテゴリー	代表的な質問	回答
応募について	代表者もしくはメンバーを分ければ1社から複数応募可能か。	代表者の重複がなければ、同一の企業や団体であっても別応募者とみなします。重複がある場合は、提案を1つにまとめる等、提案の質を上げることにより重複応募を回避してください。
応募について	審査委員が所属する企業から応募してもよいか。	応募可能です。ただし、審査委員は応募時点では非公開となっているため、審査委員のうち、各応募者と利害関係を有するものは、その応募者についての審査から外れることとしております。
応募について	測位衛星の利用を目的としたテーマでの応募は可能か。	測位衛星を活用した課題解決のための技術・サービス開発提案は応募可能です。ただし、地球観測衛星データの利用がない、もしくは背景図等の利用に留まる場合には応募不可となります。また、測位受信機等のハードウェア開発や測位精度向上のみでの応募も不可となります。
知的財産権等について	1次審査を通過し、システム開発をしたものについては、応募者のビジネスモデルとして使うことができるか。	本事業において発生したすべての知的財産については、応募者に帰属することとなります。従いまして、この度開発された知的財産を活用してビジネスを運営していくことについて制約はございません。
データ・開発環境について	QPS研究所・Synspectiveの衛星データやみちびきサービス、Tellus環境やWAGRIの利用の利用を申し込むにはどうすればいいのか。	1次通過者向けの合同ワークショップにてご案内予定です。また、応募フォーム上に応募時点でのTellus, WAGRIの利用希望を記載するアンケート項目がございますので、応募フォーム上で応募時点での利用可能性を教えてくださいと幸いです。
データについて	データをNEDOで購入してもらうことはできるか。	有償データは、ご要望に応じて事務局が購入することも検討します。
合同ワークショップについて	合同ワークショップは参加必須でしょうか。	初回の合同ワークショップはキックオフを兼ねているため、1次審査通過者の皆様の参加は必須とさせていただきますが、以降の合同ワークショップへの参加は任意とします。また、2次審査向けの事前説明会についても参加必須とさせていただきます。

ご質問の受付

本資料以外の詳細については、公式サイトに記載の内容をご覧ください。

公式サイト： <https://space-data-challenge.nedo.go.jp>

【質問受付】

質問事項は以下の事務局あてに電子メールにてご提出ください。

なお、連絡の際は、メールの件名に必ず「質問（NEDO Challenge）」と記載し、本文に「所属団体名」、「担当者名」、「メールアドレス」を明記ください。

NEDO Challenge, Satellite Data 運営事務局

メール：info@space-data-challenge.jp

受付期限：2025年7月25日（金）正午迄

【質問回答】

ご提出いただいた質問へは、原則3営業日以内に事務局から電子メールにて回答します。

なお、よくある質問は、一定程度まとまったタイミングで公式サイト上にて公開します。

以上